

平成28年ホヤ類調査結果速報 No. 5

平成28年11月2日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

協力機関：渡島地区水産技術普及指導所

渡島北部地区水産技術普及指導所

胆振地区水産技術普及指導所

※この速報は函館水試HPでも見るができます。

【アドレス：<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>】

9月20日～10月25日に噴火湾周辺沿岸の各地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

- 調査を行った全地区でヨーロッパザラボヤの付着が確認されました（図1、2、3）。
- ヨーロッパザラボヤの付着は、湾奥部（虻田～落部地区）が中心でした（図2、3）。
- 過去のデータと比較すると、付着個体数は礼文地区でやや多く、伊達、長万部、森および砂原地区でやや少ないですが、全体としては、ほぼ平年並みの付着状況です（図4）。
- 体サイズは15～40mmの個体が約8割を占めています。10mm未満の個体の割合は小さく、新たな個体の付着は少なくなっていると考えられます（図5）。
- 付着個体数が比較的多い湾奥部の各地区では、2月頃まで付着重量が急激に増加していくと見込まれます。特に、年明け以降の出荷を予定している場合、できるだけ付着物除去作業を実施して下さい。

図1 調査地区と耳吊ホタテガイ（落部、礼文地区）



調査地区（10地区）

落部地区（平成28年9月28日）

礼文地区（平成28年10月24日）

問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・吉田
TEL:0138-83-2893 FAX:0138-83-2849

耳吊りホタテガイ付着物調査

〔調査月日：9月20日～10月25日、調査地区（伊達、虻田、礼文、長万部、八雲、落部、森、砂原、鹿部、南茅部）〕

ホタテガイを1連から上層、中層、下層ごとに5枚ずつ抽出し、主に肉眼による観察により、付着物の識別、採取を行いました。ヨーロッパザラボヤおよびその他付着物の重量測定、ヨーロッパザラボヤ個体数の計数および体サイズ測定を行いました。

1) 付着重量と付着個体数

ヨーロッパザラボヤの付着重量、付着個体数ともに、虻田～落部地区で数値が高くなっています（図2、3）。例年どおり湾奥部で付着量が多い状況です（図4）。なお、伊達、礼文および南茅部地区では、イガイ類、フジツボ類などの付着も目立ち、その他重量が重くなっています。

図2 各地区の付着生物重量（平成28年9月20日～10月25日）

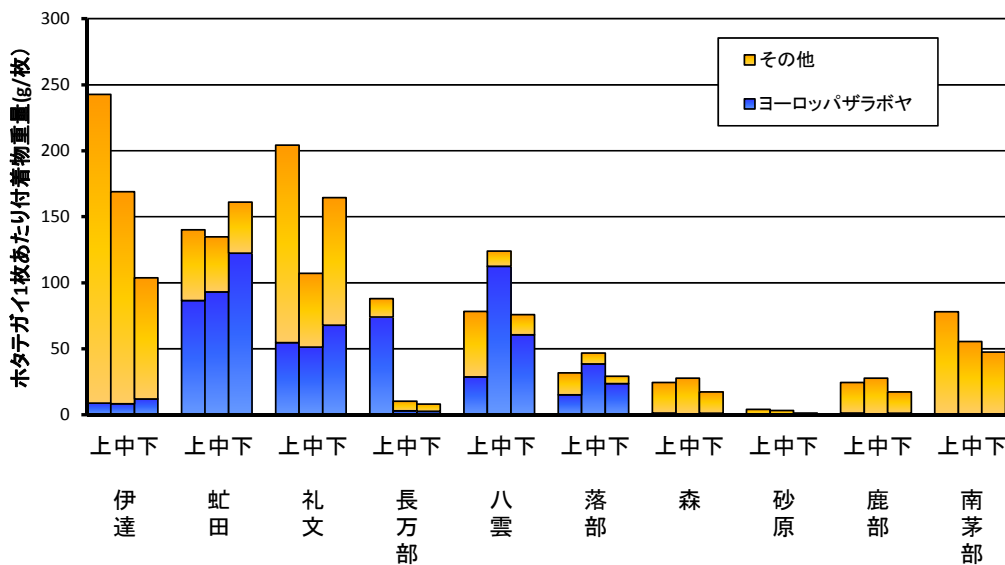


図3 各地区のヨーロッパザラボヤの付着個体数（平成28年9月20日～10月25日）

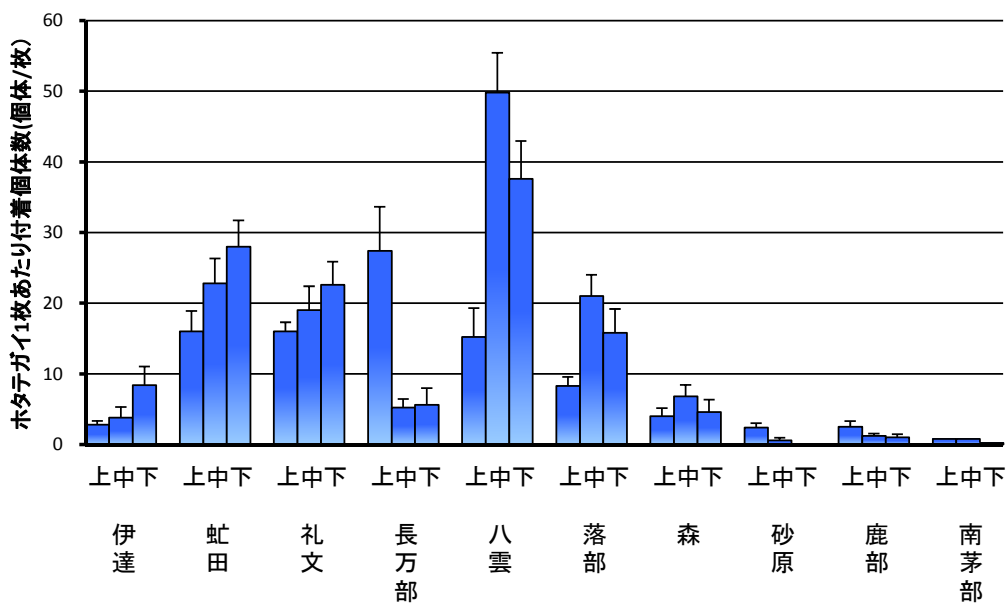
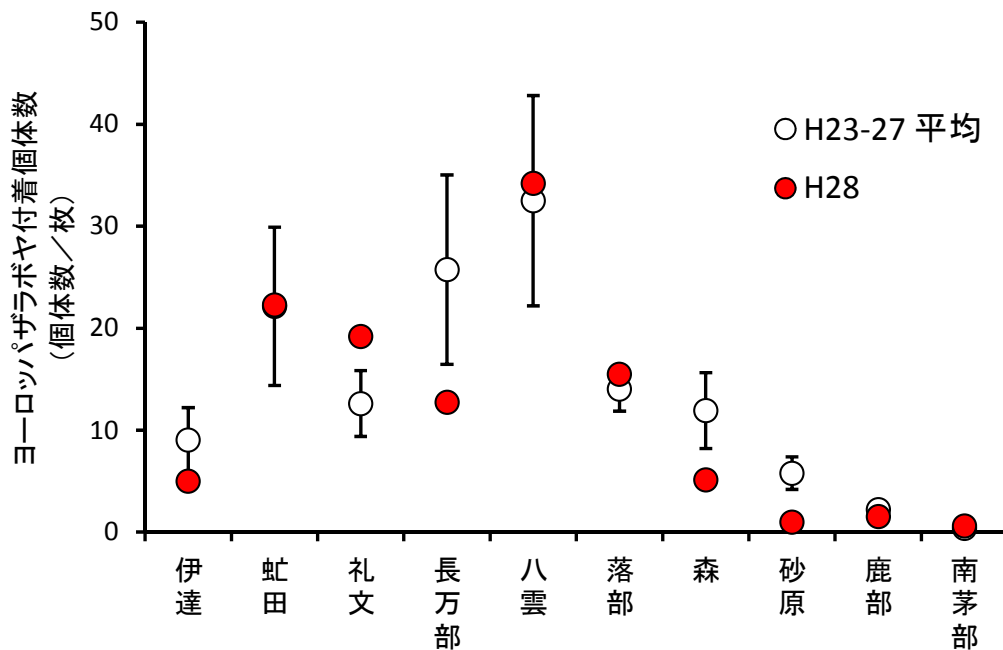


図4 ヨーロッパザラボヤ付着個体数（3層平均）の過去のデータとの比較



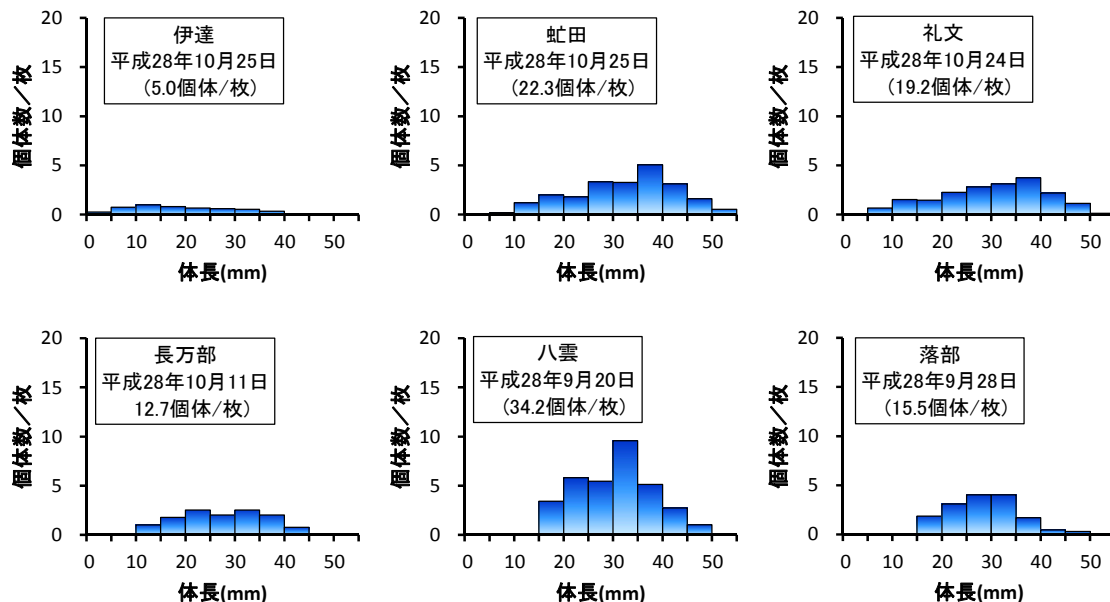
縦棒は標準誤差。各年の調査期間は以下のとおり。H23：10/6-19、H24：10/9-22、H25：10/9-29、H26：9/16-10/2、H27：9/14-10/6。また、H22 伊達、虻田、南茅部地区、H26 南茅部地区、H27 落部、砂原地区は欠測。

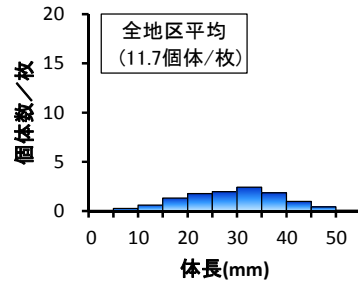
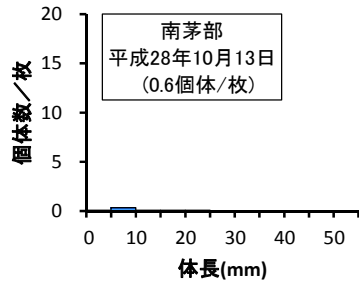
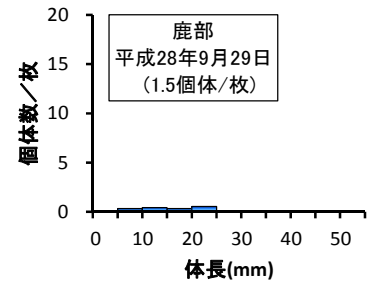
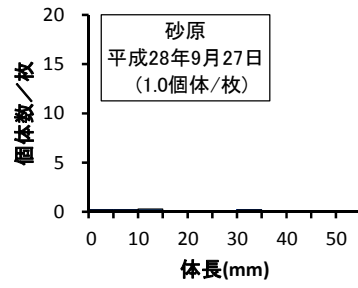
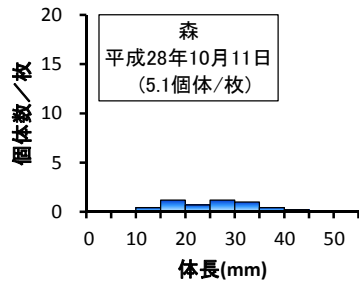
ヨーロッパザラボヤは、内湾や入り江などの静穏域に大規模な個体群を形成する種とされています。噴火湾の調査結果でも、ヨーロッパザラボヤの養殖ホタテガイへの付着は静穏な湾奥部で多くなる特徴が認められます。

2) サイズ組成

養殖ホタテガイに付着しているヨーロッパザラボヤは、15~40mm の個体が中心となっています（図5）。10mm 未満の個体の割合は小さく、新たな個体の付着は少なくなっていると考えられます。

図5 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（平成28年9月20日~10月25日）





参考文献

北海道におけるヨーロッパザラボヤの分布状況とその特徴について、以下の文献を公表しています。

- 金森誠・馬場勝寿・近田靖子・五嶋聖治（2014）：北海道における外来種ヨーロッパザラボヤ *Ascidella aspersa* (Müller, 1776) の分布状況. 日本ベントス学会誌 69(1)：23-31.
(URL : https://www.jstage.jst.go.jp/article/benthos/69/1/69_23/_pdf)